

生き方や進路に対する意識の向上と仲間づくりを目指した実践  
～オリジナル劇の創作と文化祭での取組を通して～

鹿屋市立細山田中学校 教諭 江藤 順治

## 目 次

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	本校の文化祭における取組	1
4	研究の仮説	1
5	研究の内容	1
6	研究の実際	2
	(1) 進路選択に関心をもち、進路劇に意欲的に取り組むためのオリジナル脚本の作成と工夫	
	(2) 生徒たちが意欲的に練習・演技に取り組むための手立ての工夫	
	(3) 劇を分かりやすく発表し、多くの方々に理解してもらうための手立ての工夫	
	(4) 他者のよさを認め、人間関係を深めていくための手立てと工夫	
7	研究の成果と課題	8
	(1) 感想ワークシートより	
	(2) 研究の成果	
	(3) 研究の課題	
8	研究のまとめ	9

〔引用・参考文献〕

・『エンカウンターで学級が変わる』〈中学校編〉 國分康孝 図書文化 平成9年

## 1 研究主題

生き方や進路に対する意識の向上と仲間づくりを目指した実践  
～オリジナル劇の創作と文化祭での取組を通して～

## 2 主題設定の理由

最終学年である3年生にとって、体育大会や文化祭は、3年間で最も力が入るとともに、一生の思い出となる行事である。今年度、本校に赴任したばかりではあるが、3年生の担任を任されることになった私にとって、その3年生たちに「学びのある中でも、いかに大きな達成感を味わわせられるのか」、「大きな行事を通して、いかに人間関係を深められるのか」ということは、大きなテーマであり目標であった。昨年度の文化祭の感想を生徒たちに聞いてみたところ、残念なことに、「去年の文化祭は全然うまくいかなかった」、「つまらなかった」、「今年こそ文化祭では良い思い出を作りたい」といった感想ばかりが寄せられた。

彼らの抱えている不安や不満を、大きな喜びや満足感・達成感に変えるだけでなく、学びながらも更に人間関係を深めていく。これらの目標を実現すべく、仮説を立て文化祭という学校行事の中で取り組んでいく決心をした。

## 3 本校の文化祭における取組

本校では、文化祭を毎年11月上旬に行っている。各学年1クラスずつの小規模校であり、全校生徒は94人（うち3年生は34人）である。各学年で自由に劇やダンス・歌等を発表することもできるが、学年ごとにテーマが設定されており、そのテーマに沿った発表をすることになっている。

1年生のテーマは「郷土・国際理解」、2年生は「平和学習・人権学習」、3年生は「生き方・進路学習」である。

生徒たちに文化祭で何をしたいかの希望調査を行ったところ、「劇をしたい」という希望が圧倒的に多かったため、3年生は劇を演じることに決定した。

## 4 研究の仮説

**仮説1** 文化祭で、進路選択をテーマにした劇に取り組むことにより、進路についての知識や関心を高めることができるのではないかと。

**仮説2** オリジナル劇に真剣に取り組むことで、生徒たちの学校行事における、やる気や達成感を高め、人間関係を深めることができるのではないかと。

## 5 研究の内容

- (1) 進路選択に関心をもち、進路劇に意欲的に取り組むためのオリジナル脚本の作成と工夫
- (2) 生徒たちが意欲的に練習・演技に取り組むための手立ての工夫
- (3) 劇を分かりやすく発表し、多くの方々に理解してもらうための手立ての工夫
- (4) 他者のよさを認め、人間関係を深めていくための手立てと工夫

## 6 研究の実際

### (1) 進路選択に関心をもち、進路劇に意欲的に取り組むためのオリジナル脚本の作成と工夫

#### ア 劇の脚本決定までの流れ

文化祭の劇の脚本（台本）探しの方法は、以下の方法が一般的であるが、それぞれに◎メリット（長所）と▲デメリット（短所）がある。

##### 方法1 図書館やインターネットで台本（脚本）を探す

- ◎ やりたい脚本を見付けることができれば、すぐに若干のアレンジを加えながら、そのまま使うことができる。
- ▲ 学校の図書館に脚本集が置いてある学校もあれば、置いていない学校もある。市立図書館などに借りに行っても、各学校が文化祭シーズンで、貸し出し中のことが多い。
- ▲ 脚本集には、自分たちの設定したテーマに即していて、生徒たちや私たち自身が本当に「おもしろい。やりたい！」と思える台本に出会えることはなかなかない。
- ▲ 脚本集の劇は、設定時間が50分～1時間設定のものが多く、発表時間に応じて再編集しなければならない。
- ▲ 脚本集に載っている劇の登場人物は10人以下であるものが多く、大人数で取り組むことができないものが多い。

##### 方法2 自分でオリジナルの劇を創作する

- ◎ 自分のアイデア次第で、自分の好きなテーマやストーリー、登場人物の人数設定、場面設定・時間設定にすることができる。
- ▲ 設定したテーマに合わせたストーリー、登場人物、使える道具等、全てを含めてゼロから自分で考えなければならないため、かなりの時間と労力が必要である。

私も自分で、かなりの数の脚本を読み探したが、進路選択に関する脚本は、ほんのわずかであった。見つけた一つの脚本を生徒に紹介したところ、「この劇は、去年の3年生が演じていました。」という返答があった。もう一つの脚本もあまりに内容が複雑で難しい劇であったため、自分でオリジナルの劇（脚本）を作ることにした。

そして、約3週間という限られた準備時間の中で、生徒たちに意欲的に練習・発表をさせるために、劇作りや脚本作りに関して以下の3点を工夫した。

- ① 進路選択をテーマにし、生徒自身が「なるほど」「そういう見方や考え方があったのか」「何とかなるかも」と気づき、「この劇をやりたい」と強く思える劇
- ② 見に来てくださる方々（生徒・先生方・保護者）にも進路選択について考え楽しんでもらえる劇
- ③ できるだけ多くの生徒が出演できる劇

生徒に話し合わせて、脚本を一から作成させていく方法もあったが、劇の脚本作成が未経験であること、限られた時間の中で、話の流れや登場人物、作成すべき道具・衣装、効果音、スポットライトのタイミング等の全てを考えて、劇を構成・創作していかなければならない。そのため、今回は構成・ストーリーの幹となる部分は全て教師（私）自身が内容の決定と作成を行った。そして、脚本のベースを生かしながら、細かな部分については、生徒のアイデアに任せることにした。

## イ 劇の構成イメージ

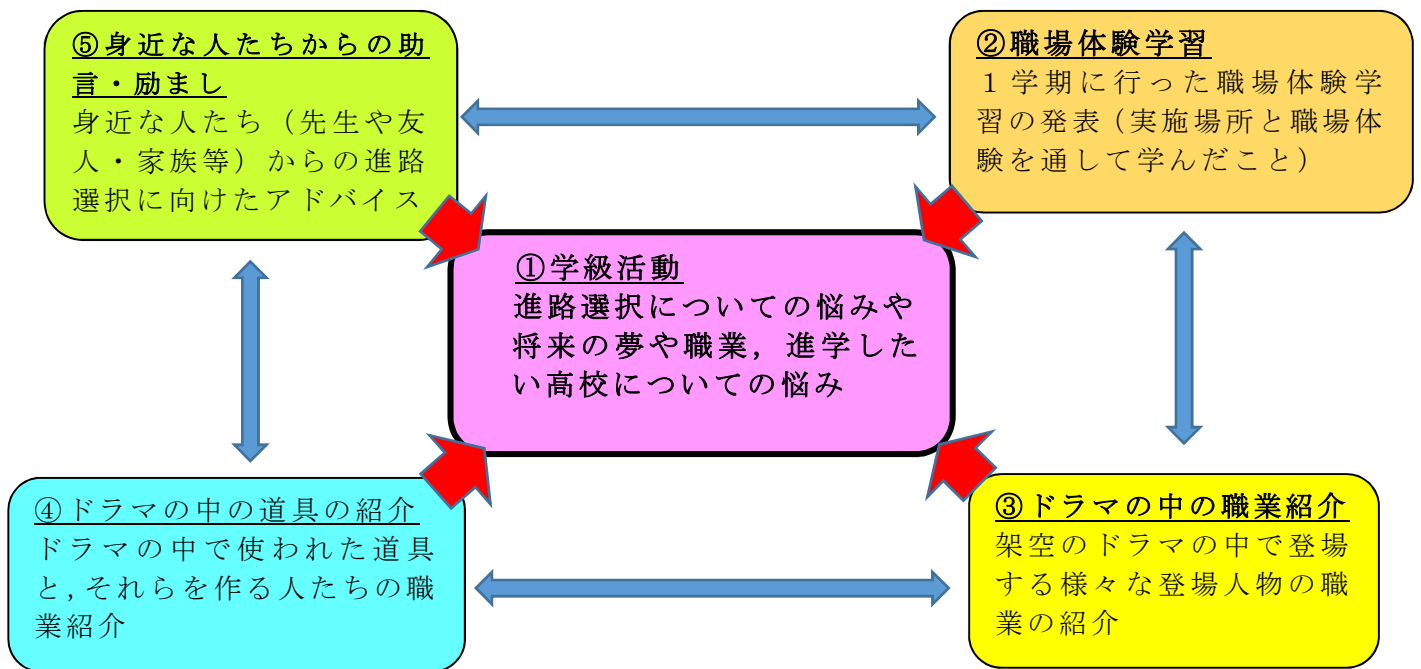
劇の内容をおもしろく、理解してもらいやすい内容にするとともに、更に可能な限り多くの学級のメンバーを舞台に出演させるために、この劇の基本構成を「①学級活動で進路についての悩みを話す」、「②1学期の職場体験学習で学んだことを発表し、振り返る」、「③架空のドラマの中で出てくる登場人物のそれぞれ職業を紹介する」、「④登場人物が使った道具についての職業を紹介する」、「⑤身近な人たちからの助言・励まし」の五つの構成を組み合わせることにした。

特に、3年生が進路や職業を選択する際に、「将来なりたい職業がない」、「行きたい高校が分からない」という悩みを抱えている生徒たちが多い。


劇を演じることを通して、「自分の好きなドラマの中に出てくる職業に注目するだけでも、たくさんの職業がある」、「自分の好きなドラマの中で使われている道具の数だけ、その道具を作っている職業や人たちがいる」ということを、悩みを解決し、自分の将来の職業や進路先を見つけるための、新たな見方・考え方として生徒たちに知ってもらいたいと強く考え、劇を構成していった。

そして、劇のタイトルを「未来を探して」に決定し、脚本の作成を行った。


劇の場面構成イメージ図



劇「未来を探して」の主な流れ

	場面	順	劇の主な内容	時間	人数
第一幕	教室	1	・学活の授業が始まり、今までの進路学習の内容を振り返る。 	5	9

	職場体験	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に体験した職場体験学習の事業所や、学んだことをそれぞれ紹介する（計13事業所）。</li> </ul>		10	13
	教室	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちが、自分の今の将来の夢や職業を発表し合う。その中で主役の2人が、まだ決まっておらず進路選択に悩んでいることを打ち明け、先生たちにアドバイスを求める。</li> <li>・先生は、まずは、家族やたくさんの働いている人たちから職業についての話を聞くようにアドバイスする。</li> </ul>		3	9
	教室	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が「自分たちがよく見るドラマの中に進路選択のヒントが隠されている」と言って、ドラマを見せ始める。</li> </ul>		2	9
第二幕	ドラマ銀行内	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般客が口座開設のために、ある銀行を訪れたところ、包丁を持った3人組の強盗がやって来て金銭を要求する。一般客や職場体験に来ていた中学生、銀行員が人質に捕らわれる。</li> </ul>		5	6
		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察と母親が到着し、犯人への説得を行う。</li> <li>・テレビ局のレポーターとカメラマンが、ニュース速報として中継を行う。</li> </ul>		4	4
第三幕	異空間	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマにストップを掛け、学級担任が登場人物一人一人に自己紹介をさせる。銀行員が出身高校やその職業を選んだ理由などを紹介する。</li> </ul>		2	2
		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行員と、一万円札を製造する国立印刷局員が、職業紹介と新紙幣に関するクイズを出題する。</li> <li>Q1 日本の紙幣の正式名称は何？</li> <li>A1 日本銀行券</li> <li>Q2 新一万円札に載る人の名前は？</li> <li>A2 渋沢栄一</li> </ul>		3	2
		9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯人に使われた包丁を作成した、種子島の種子包丁職人が種子島の歴史と包丁作りの説明を行う。</li> </ul>		2	2
		10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ局のレポーターとカメラマンが職業紹介を行った後、撮影に使っている高性能カメラの説明を行う。</li> </ul>		2	2
		11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と警察がそれぞれ職業紹介を行う。</li> </ul>		2	3
第四幕	異空間教室	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が、学級活動に参加していた生徒たちをドラマの中（異空間）に招き入れる。</li> <li>・生徒たちは、テレビやドラマを見る視点を変え、ドラマの中の登場</li> </ul>		5	9

		<p>人物や使われている道具に注目することで、自分の将来の職業を探すヒントになることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の夢や職業に不安を抱いていた生徒たちは、「自分でも見付けられるかもしれない。」と希望をもち始める。</li> <li>・ 学級の仲間たちは全員で、お互いに励まし合い、未来への希望を語りながら、「みんなで未来を探して頑張るぞ！」とシュプレヒコールをあげる。</li> </ul>			
終末	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 劇の作成風景・配役などのエンドロールを流す。</li> </ul>		3	

(2) 生徒たちが意欲的に練習・演技に取り組むための手立ての工夫  
 生徒たちが意欲的に調査を進めるために以下のような工夫を行った。

**ア 場面ごとの少人数によるグループ編成**

まず、役者を4～5人に分け、少人数によるグループ編成を行った。各場面を、各グループに振り分けることによって、一人一人の台詞を覚える量と負担を軽減することができる。そして、その分、演技力を付けることに時間を使うことができる。

次に、道具・背景画作成係においても、同様の少人数のグループ編成を行い、自分の制作する道具作りにこだわりをもって取り組ませた。また、各グループにリーダーを配置することで、リーダーが中心となって、練習や道具作成に励む姿が見られた。

**イ 話し合いによる配役の決定**

全ての配役を生徒たちに決めさせるのは、自分の意見を主張できる生徒や、立場上強い生徒が、やりたい役を独占し、不公平感が出てしまう場合も多い。そのため、教師側が「日頃の生活状況や性格等を考慮し、全ての配役を決める」という方法も考えたが、それもやはり反発が出てしまう。

そこで、今回は、「よりよい劇にするために、誰がその役を担当するのがよいのかを徹底的に話し合っで決める」という方法を採用した。自分たちが、長い時間を使って決めた配役であったため、自分たちで責任と自覚・自主性をもって練習に取り組んでくれた。

**ウ 生徒のアイデアを積極的に取り入れる**

劇の台本の台詞を、そのまま言わせてしまうと、初めて耳にする言葉等や、自分が使ったことのない表現は、うまく言えず、台詞を間違えてしまうことが多い。そこで、自信をもって大きな声で言えるように、「自分が言いやすい表現に変えるのはOK」、「台本が、もっとおもしろくなる台詞や表現・演技の動きは、自分でどんどん新たに取り入れてOK」とした。そして、**「台本の台詞は、あくまで先生のアイデアで考えたものです。自分たちのアイデアを出して、先生のアイデアを超えなさい。そうしたら、数段劇がおもしろくなるよ！」**とアドバイスを行った。

その結果、「それでいいんだ！なるほどね！」と、自分たちで、様々な新たな台詞や演技のアイデアを積極的に出してくるようになってきて、劇の内容や演技力が格段に上がっていく様子が見て取れた。道具作成においても、教師側は「こういうイメージの物を作って。」と伝えた後は、生徒たちが自分たちで話し合っでアイデアを出し、工夫を凝らしながら、道具の作成を行っていた。



【生徒だけの練習風景】



(3) 劇を分かりやすく発表し、多くの方々に理解してもらうための手立ての工夫  
 ア 静止画やクイズを活用したプレゼンテーション発表

1学期に行った職場体験の様子や劇の内容を、本校の他学年の生徒たちや見に来てくださった保護者・地域の方々に、しっかりと理解してもらうことは、とても重要である。そのために、職場体験の紹介やクイズ、エンドロールなどの場面でプレゼンテーションを活用し、正面の1番大きなスクリーン(壁)に映して紹介した。

より分かりやすく観客に伝えるためのプレゼンテーション

プレゼン活用例1：職場体験学習についての発表

場面1の学級活動のシーンの中で、職場体験を振り返るシーンを設定した。他学年の生徒たちや観客の皆さんに、本校の職場体験の様子をより詳しく理解してもらうために、生徒の説明とプレゼンを交えながら13事業所の紹介を行った。



プレゼン活用例2：職業紹介におけるクイズ形式での活用

この劇では、複数の職業や、使われている道具を作成する職業を中心に紹介しているが、全てワンパターンでは飽きが増えてしまいかねない。そこで、強盗がお金を強奪した後の紙幣を紹介する場面では、観客参加型のクイズ形式のプレゼン発表を行った。

問題：このお札の正式名称はなんでしょう？

問題：次の新しい一万円札にのる人は誰でしょう？

Q：答えは何だと思いますか？  
 A：渋沢栄一です



【クイズの様子】

プレゼン活用例3：劇の背景画や職業を紹介する際の補助としての活用

劇を作っていく場合、背景画をどうするのが大きな課題になってくる。巨大な紙に背景画を描く方法もあるが、本校ではステージ下からではなく、ステージ上の近距離から大きく壁に映す劇用のプロジェクターを保有しているため、劇の背景画や職業紹介の補助としてプレゼンを活用した。リポーターは、仕事の華やかさだけでなく、台風等の中でのレポートの過酷さを紹介した。包丁を紹介する場面では、種子島へ伝来した鉄砲と、伝統工芸である種子包丁との歴史的なつながりを紹介した。

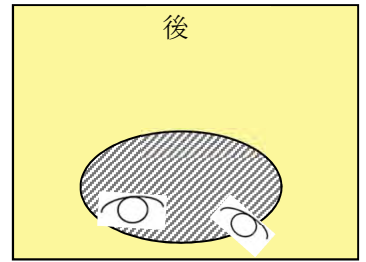


【劇で使用した背景画】

イ 舞台上における発表の工夫

劇づくりを指導するに当たり、私自身が最も大切にしている、こだわっているポイントは、「観客にしっかり劇の内容を届けること」である。当たり前のことではあるが、それが、どんなに内容のいい台本であっても、本番で「観客に声が届かない」、「何をやっているか分からない」のでは、せっかくの劇や、今までの努力が台無しになってしまうのである。

そこで、役者として舞台上上がる生徒たちに、以下の声掛けと指示を行い、常に観客を意識した劇の練習に取り組ませた。



◎◎観客席◎◎

【(図1) 舞台での立ち位置】

- 「自分たちが楽しいだけでは自己満足に終わってしまう。見に来てくださる方々が、しっかり劇を楽しんで、理解していただける声と演技にこだわろう。」
- 「舞台上で観客にお尻を向けないようにしよう。完全に真横を向いてしまうと、観客に顔が見えなくなってしまう。常に体の正面や少し斜めを向けた状態で演技しよう。」(図1)
- 「舞台の奥(後ろ)に行けば行くほど、観客からは遠くなって、声が届かなくなってしまう。できるだけ、舞台の前と中央で演技をしよう。」(図1)



【体の向きや立ち位置を考え練習する様子】

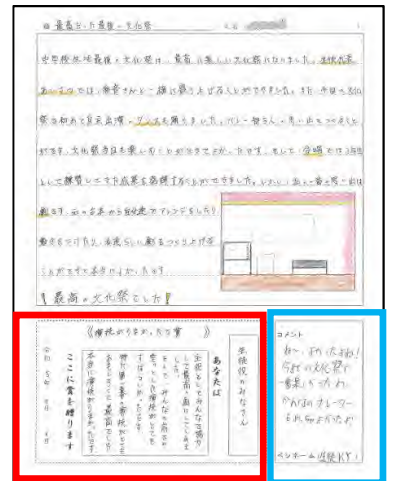
上記のような指示をした結果、劇に出演した全員が、自分たちで、自主的に意見交換をしながら、体の向きや立ち位置を考えて劇を作って行く様子が見られた。

(4) 他者のよさを認め、人間関係を深めていくための手立てと工夫  
ア 感想文と共に、自分だけのオリジナル賞状を作成する

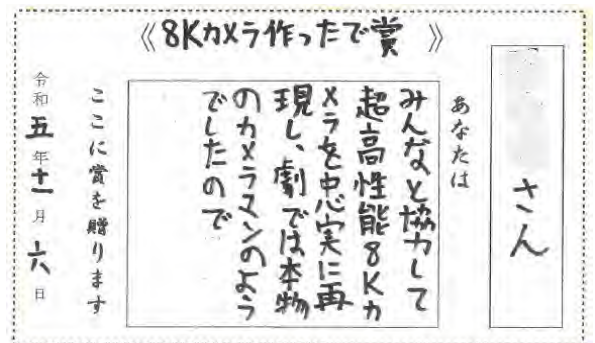
後日の学級活動では、ただ感想文を書かせるだけでなく、ワークシートの下部に、自分だけのオリジナル賞状を作らせた。

(図2：赤枠欄)

これは文化祭の取組期間中に、自分が気付いた友人のよいところや、助けてもらった人などに自分だけの賞を贈るものである。これによって、文化祭を楽しかった行事で終わらせるだけでなく、友人のよさを探しながら振り返り、感謝の気持ちを伝え合うことで、お互いを認め合い、人間関係を深めることができると思ったからである。生徒たちは、自分だけが知っている「友人が文化祭で助けてくれたこと等」を一生懸命探し、様々な賞を贈る様子が見られた。



【(図2)感想とオリジナル賞状】



【自分だけのオリジナル賞状】



イ 感想文や賞状を見てコメントを書く

全員が感想文と賞状を完成した段階で一旦回収し、今度はそれをランダムに再配布する。生徒たちは再配布されてきた友人の感想文と賞状を読んで、今度はコメント欄にコメントを記入する。(図2：青枠欄)



【学級掲示でシェアリング】



コメントを書く際には、構成的グループエンカウンターの手法を用いて、「相手のコメントを否定するようなコメントは絶対に書いてはならない(例えば、「私は〇〇さんの方が面白かったと思うよ」や「私は〇〇さんの演技の方がよかったと思うよ」など)というルールを作ってコメントを書かせた。相手の意見を読んで、相手の意見を否定せずにコメントを書くことで、相手を思いやる力や共感力を付けることができる。また、授業の最後に自分の感想を発表したり、教室の後ろにも掲示したりすることで、文化祭に対する思いや感想、自分では気付かなかった友達のよさをシェアリングすることができた。

<p>コメント</p> <p>ね〜よかったよね! 今年の文化祭で一番楽しかったわ。 かんぽのオレーターもめちゃよかったよ!</p> <p>ペンネーム(生徒KY)</p>	<p>コメント</p> <p>劇の役では、しっかり声もでていて役になりきっていて良かったと思います。 カメラの完成度も高く、すごいなあと思っていました。何事にも協力してとりこんでいて感心しました!</p> <p>ペンネーム(さ)</p>	<p>コメント</p> <p>直前まで本物のスポットライトが使えなかつたので、劇のシーンに合わせてライトをつけたり、移動させたりしてすごかったです。 スポットライトの絵が上手くてかっこよかったです!!</p> <p>ペンネーム(ok)</p>	<p>コメント</p> <p>私も今まで一番楽しく、おもしろかったです! 劇の先生役もすごく上手で本当の先生かと思いました!</p> <p>ペンネーム(みまん)</p>
--	--	---	--

【生徒のコメント】

7 研究の成果と課題

(1) 感想ワークシートより

<p>自分はスポットライトでしたがハーカルの直前まで本物のスポットライトを使えませんでした。本番でさきかとても不安でしたが演者達がとても良い演技をしてくれて、自分も「最高の大舞台だ」と思うことができました。本番では、さらにすごい劇で、スポットライトをしていてとても感心しました。最高の文化祭でした。</p> 	<p>中学校での最後の文化祭が終わり、行軍がまた1つ減りました。最高の思い出を作ろうとこの1ヶ月協力して頑張ることができました。 歌も劇も1・2年の頃よりもすばらしいのができた練習・本番1人1人が頑張って楽しむことができました。みんなで協力し作り上げた文化祭、最高に楽しい思い出ができました。</p> 
---	--

(2) 研究の成果

学級のほとんどの生徒が劇に出演し、友人たちと様々な意見交換を積み重ねながら劇を作り上げてきたことで、文化祭に対する強い達成感や満足感を得ている生徒が多い。

仮説1の「文化祭で、進路選択をテーマにした劇に取り組むことにより、進路についての知識や関心を高めることができるのではないか」については、劇を通して、進路選択の方法についての新たな見方や考え方を知ること、仮説どおりに進路に対す

る知識や関心を高めることができたのではないかと考えている。

仮説2の「オリジナル劇に真剣に取り組むことで、生徒たちの学校行事における、やる気や達成感を高め、人間関係を深めることができるのではないか」に関しては、前頁の生徒の感想文から推察しても、劇の作成を通して多くの生徒たちが、体育大会に負けないくらい大きな満足感と達成感を得ることができただけでなく、文化祭後の感想や賞状・コメント記入によるワークシートの作成とシェアリングを通して、人間関係を更に深めることができたのではないかと考えている。もちろん、劇を作成していく過程において、様々なアイデアや意見を出し合っただけで練習を重ねていく中で、お互いをより深く理解し、人間関係を深めていったと考えられる。

さらに、見に来てくださった方々や他学年の生徒たちにとっても、進路選択に関して、新たな見方や考え方を得るきっかけとなっていたり、自分の生き方や進路に対して前向きな気持ちになってもらっていたりすれば幸いである。

### (3) 研究の課題

今回の劇の取組を通して、私自身が、今後取り組まなければならないと感じている課題を以下に挙げていく。

ア 進路や職業選択に関する継続的な情報収集と情報発信

イ 文化祭という短期間の取組ではなく、総合的な学習の時間等を利用した中・長期的な進路学習の継続と実践

ウ 地域の方々や保護者・卒業生などの地域資源を活用した進路学習の充実

エ 劇の脚本作り、劇の練習等、配役決め、道具制作等において、生徒自身が中心となって劇作りに取り組める仕組みの構築

オ 構成的グループエンカウンターの実践を通じた仲間づくりの充実

## 8 研究のまとめ

今回の文化祭の劇への取組によって、多くの生徒たちに、進路選択に対する新たな見方や考え方をもち、また、「高校入試に向けて、これから頑張っていくぞ！」という気持ちを改めてもち、また、「劇をやった良かった」、「3年間で1番楽しかった」、「最後までやりきれた」という達成感をもたせることができたことは、本当に大きな成果であった。

しかし、上記の課題に挙げたように、これらの学習を、一過性のものでなく、更に継続・深化させ実践していくことは、今後の大きな課題と言える。

これからも、私たち教師が、生徒たちの進路選択や仲間づくりのためにできることは、まだまだある。少しずつではあるが、自分にできることは何かを考えながら、継続・実践していきたいと考えている。